

令和2年度 学校評価報告書（目標設定）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
			具体的な方策	評価の観点
1 教育課程 学習指導	①生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養をめざし、多様な学習活動において深い学びを実現していく。	①知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等、育みたい資質・能力の育成に向けて、組織的な授業改善の一層の推進を図る。	①校内授業研究テーマを踏まえた教職員研修会や公開研究授業を積極的に行い、組織的な授業改善を実施する。	①-1 魅力と特色アンケート「思考力・判断力・表現力を高めることができたか」の肯定項目が92%以上か。 ①-2 生徒による授業評価（授業の在り方についての3項目）の「かなり当てはまる」が5割以上か。
	②横浜国立大学との中・高・大連携型教育の一層の充実を図る。	②県立高校改革実施計画に示された中高大連携を充実・発展させる。	②横浜国立大学教育学部附属横浜中学校との研究活動や教職員交流等を通じて連携の理念を共有する。また、横浜国立大学との連携を一層深める。	②横浜国立大学との連携の充実が図れたか。
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	①生徒会活動、部活動の充実をさらに図り、リーダーシップと協働し支える力を育む。	①新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえながら、生徒会活動、部活動の充実のために、計画的に活動を行う。	①制約を創意工夫で乗り越えとともに、生徒の心身の状況や教職員の働き方に留意し、計画的に支援・指導を行う。	①学校生活アンケートで「学校行事」及び「部活動に満足している」の肯定項目が8割以上か。
	②学校行事等において、生徒一人ひとりが高い目標を持ち、主体的に参画しているよう支援を行う。	②学校行事等に対しては、学級活動、生徒会・各種委員会活動等を充実させ、他者と協働して主体的に取り組めるよう支援する。	②生徒の主体的な行事運営のために、ホームルーム活動の充実を図り、かつ生徒会・各種委員会と教職員の連携を密にする。	②学校生活アンケート「体育祭」「光陵祭」の肯定項目が8割以上か。
	③生徒一人ひとりに応じた支援を行う。	③支援が必要な生徒の状況を把握し、個別支援に向け組織的対応を図る。	③学年や部活動、教科・科目等多面的な視点で生徒状況の把握を行い、担任・副担任との情報共有を促進する。	③生徒状況の把握について、情報共有が図れたか。

3	進路指導・支援	<p>①高大接続改革（高校教育、大学入学者選抜、大学教育）を見据えて、総合的な探究の時間をはじめとした教育活動を展開し、生徒による自己の在り方生き方の探求を支援する。</p>	<p>①高大接続改革に係る情報収集、分析を綿密に実施し、生徒が自身の生涯を見通して考えることができるように、キャリア教育を実施する。</p> <p>①-2 第一志望を諦めさせないよう3年間を見通した進路支援を計画・実施する。</p>	<p>①各教科・科目等を始めとしたすべての教育活動において生徒のキャリア形成につながるよう指導内容を充実させる。</p> <p>①-2 生徒が希望する進路の実現に向け、生徒・保護者対象のキャリアガイダンスや、夏季講習等、生徒のキャリア形成や学力向上等を目的とした取組を実施し、教職員の情報共有を促進する。</p>	<p>①魅力と特色アンケート「キャリア教育を受けたことにより、自分が成長できたと思うか」の肯定項目が83%以上か。</p> <p>①-2 キャリアガイダンスや夏期講習等、生徒のキャリア形成や学力向上等を目的とした取組が、多面的に行われたか。</p>
4	地域等との協働	<p>①地域との連携を推進することで、多様性を尊重し、生徒の社会性や協働する力を育む。</p>	<p>①地域貢献を推進し、生徒の社会性、協働する力を養う。</p> <p>①-2 本校の教育活動を外部に広く発信していく。</p>	<p>①近隣学校との交流事業や、地域貢献活動を継続して実施し、コミュニケーション能力の育成と他者理解を深める。</p> <p>①-2 学校説明会やホームページ等を活用し、総合的な探究の時間を含めた本校の教育活動についての情報発信を行う。</p>	<p>①参加した生徒が、自己肯定感、協働、活動の楽しさ等の満足感を得ることができたか。</p> <p>①-2 学校説明会等におけるアンケートにおいて「本校の教育活動への理解」等に関する肯定項目が80%以上か。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①学校がめざす姿を共有し、その実現に向けて協働して取り組める組織とする。</p> <p>②コミュニティスクールとして、学校運営協議会での意向を踏まえ、よりよい教育環境を整備する。</p> <p>③生徒が安心して通うことのできる体制を作る。</p> <p>④耐震工事の機会を利用し、教育環境の整備を行う。</p> <p>⑤生徒と向き合う時間を確保するために、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。</p>	<p>①②職員が働きやすい環境を作るために、職員間のコミュニケーションに努め、情報共有を図る。</p> <p>③④耐震工事中の安全確保と良質な学習環境を整備する。</p> <p>⑤長時間勤務を是正する</p>	<p>①②多様な教職員研修を実施し、中堅教員、ベテラン教員の経験を生かした若手教員のサポート体制及び学校運営協議会の意向を踏まえ、よりよい環境づくりに努める。</p> <p>③④耐震工事で教育活動にできるだけ支障のないよう関係機関との調整を行い、安全安心で快適な学習環境づくりに努める。</p> <p>⑤ICT利活用を推進し、教職員の報告・連絡・相談体制の整備及び勤務時間内の会議の徹底を図る。</p>	<p>①教職員研修の実施回数が12回以上か。</p> <p>②教職員への情報発信や、学校から外部への情報発信を推進することができたか。</p> <p>③④耐震工事中の学習環境を整え、生徒の安心安全を確保することができたか。</p> <p>⑤教職員がICT利活用等により、組織的な学校運営と校務の効率化が図られたと実感できたか。</p>